

学校関係者評価結果を受けた改善についての報告書

小郡市立立石中学校

I 未来へ向かう「心」の育成について

評価結果 ○成果●課題・疑問	改善の具体的方策
<p>○相手を思いやる心を持ち、立石らしく素直で明るい子に育っていると思う。</p> <p>○いじめや不登校の未然防止が徹底され、良好な結果がうかがえる。</p> <p>●現代社会におけるいじめは潜在化、陰湿化し、気づきにくいところで起きている。それらの状況を踏まえ、豊かな心の育成とともに不登校の予防と解消にさらに努めてほしい。</p>	<p>・教師が「いただく、いどむ、いかす」姿を発揮できる場を意図的に仕組む。また、その姿を積極的に褒めることで生徒の非認知能力を高めることができるようにする。</p> <p>・月アンケートや教育相談等で生徒の変容をきめ細やかに捉える。生徒指導部会や職員会議等で情報共有を図るとともに、SC・SSWと連携しながらいじめや不登校に対する組織的な対応を継続する。</p>

II 生きて働く「知」の育成について

評価結果	改善の具体的方策
<p>○子どもが将来なりたい職業を具体的に考えられていることから、漠然とした学びではなく、目標をきちんと設定した学習が行われている。</p> <p>●生きていくために必要な基礎学力（読む・書く・計算力）が身につく教育をしっかりとしてほしい。</p> <p>●学力が自分の将来にどう役に立つのか理解させ、知の本質を提供してほしい。</p>	<p>・ゴールを明確にした授業づくりができるよう、研究推進部を核として主題研究を一層充実させる。</p> <p>・学力調査におけるCD層の生徒を底上げできるように、分析結果を全教職員で共有し、改善の具体的方策を可及的速やかに取り組む。また、個別指導、補充指導の充実を図り、基礎基本の定着を図るようにする。</p>

III 健康で逞しい「体」の育成について

評価結果	改善の具体的方策
<p>●毎日の家庭での手作りの食事の提供、インスタント食品や甘い菓子は取り過ぎない指導を充実させてほしい。</p> <p>●安全・防災等、地域と関わりながら身につくこともあるので、地域行事への参加を促してほしい。</p> <p>●体力向上や身体や心を育む活動をもっとやってみてはどうか。干潟の旦田ヶ浦池の周遊マラソン、花立山への登山の計画を検討してほしい。</p>	<p>・保健体育科や養護教諭、給食センターの栄養教諭との連携を図り、食育の充実を図る。</p> <p>・令和6年度からの小中一貫校実施に伴い、4月の合同遠足において、発達段階に合わせた活動を考えていく。</p> <p>・11月のウォークラリーや秋まつりでは、協働のまちづくりと連携を図りながら、生徒が参画できるよう促していく。</p> <p>・地域の自然を活用した持久力などの体力の向上は検討していく。</p>

#### IV 地域とともにある学校づくりについて

評価結果	改善の具体的方策
<p>○地域への行事への積極的な参加があり、素晴らしい。今後は、もっと子ども達に任せられるようになるとよい。</p> <p>●「くろつちカリキュラム」の充実を図ってほしい。</p> <p>●地域の行事や、地域発展への提言で発信する活動には、積極的に参加を促してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「くろつちカリキュラム」を踏まえた総合的な学習の時間の充実を一層図る。「人権」「地域」「キャリア」の視点で、小中の縦のつながりを意識した教育活動を行っていく。</li> <li>・地域との連携を図り、生徒が積極的に地域行事へ参画していくことができるようにする。</li> <li>・地域の人・もの・ことを最大限に活かすために、学園運営協議会や小中合同研等で内容を吟味していく。</li> </ul>

#### V ICT活用力の育成について

評価結果	改善の具体的方策
<p>○タブレットの活用は充分できている。ICTを活用して小中での授業の交流もあり、他ではない素晴らしい教育ができている。</p> <p>●時代に即した教育のツール、教科書内容を深めるソフトの活用(理科実験、数学立体図形)を進めてほしい。タブレットを使って予習をしていく指導も必要である。</p> <p>●情報モラル教育の徹底を図り、自分の行動がどのような結果に結びつくのかを想像できるように指導をしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動場面において、タブレット活用は進んでいるが、子どもたちがさらに情報の活用を円滑に進めることができるようにするために、タイピング練習の時間を確保できるようにする。</li> <li>・タブレットを使った課題の提供及び提出を行うとともに、家庭学習において予習で活用できるソフトの導入について検討したい。</li> <li>・規範意識や情報モラルを向上させるために、保護者も一緒に考え学習する場を設定する。具体的には、7月の保護者と学ぶネットトラブル講座を実施する。</li> </ul>

#### VI 個に応じた学びの充実について

評価結果	改善の具体的方策
<p>○学力保障・個性伸長のため、多様な学習を取り入れられ実践されていることが素晴らしい。個別の指導によく取り組まれている。</p> <p>●特別な配慮を要する児童の指導方法を工夫され、実践していったほしい。保護者と先生方、専門の先生と連携を深めて、個々に応じた教育をお願いする。また、その子の特技、好きな所を伸ばす指導をお願いする。(ほめて育てる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学習において、子どもがどこでつまづいているのかを見取り、個に応じた指導を継続して行っていく。さらに、「できるようになったこと」を自覚できるようにし、しっかり褒めて伸ばしていくようにする。</li> <li>・現在も特別支援コーディネーターを中心に個別最適な学習が進められるように工夫している。今後は、さらに専門家や保護者とも連携した取組を行っていく。</li> </ul>

## VII 教職員の資質向上の推進について

評価結果	改善の具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 40代50代の先生方の経験を活かし、若い先生のスキルアップを図ってほしい。また、いろいろな研修会への参加に努めてほしい。</li> <li>● 世の中の変化とともに生じる新しい課題に応じた専門エキスパートの導入など、無理のない対策をとり、子ども達の心身の成長に寄り添う時間を確保してもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベテランの知識技能、若手のアイデアの双方が学校運営に活力を生み出すような風土を醸成していく。</li> <li>・財源の確保を如何に行うかを教育委員会とも協議しながら、外部資源・民間資源の導入、活用を検討していくようにする。また、小中一貫校実施に伴い、中学校からの乗り入れ授業等も計画していきたいと考えている。</li> </ul>

## VIII 小中9年間を見通した指導体制の充実について

評価結果	改善の具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 魅力ある「小中一貫教育」の実施へ、保護者・地域と共に9年生の目指す姿に向かって、小中全教師で合同研修へ取り組み「志をもって学び、地域に貢献する生徒」を育ててほしい。</li> <li>● カリキュラムを最大限に柔軟に活用し子ども達の成長を後押ししてもらえばと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度も、学校教育目標を「郷土を愛し、自分で考え、自ら行動する子どもの育成」とし、小中で目指すところを一つにできた。次年度も「くろつちカリキュラム」をもとに、小中の教職員で縦のつながりを深めていく。</li> <li>・小中合同の7者会を毎月行い、小中で打合わせを丁寧に行っていく。週時程を工夫し担当同士の打ち合わせも行いやすいようにする。</li> </ul>

## IX 働き方改革の推進について

評価結果	改善の具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ノー一部活動は進められている。</li> <li>● 省力・簡略出来るもの、分散出来るものをもう一度分析してほしい。コーディネーターの先生や、保護者の協力、外部部活動指導員の導入等により勤務時間の短縮を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員等の人材の確保を進めるとともに、学園サポーターを導入する。</li> <li>・令和6年度からの校務運営システム導入を機に、活用の促進を図りながら作業の効率化を図っていく。</li> <li>・仕事の優先順位を考え、業務の効率を意識できるようにしていく。</li> </ul>

## X 人権・同和教育の啓発推進について

評価結果	改善の具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域・保護者に向けて、人権・部落問題に関する啓発がきちんと行われている。</li> <li>● 子ども達はよく学んでいるようだが、保護者に対してどう啓発していくかが課題だと思う。</li> <li>● 小中連携して人権感覚を磨く学習は大切である。継続は力、徐々にしか身につかないと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者人権学習参観では、子どもたちの学習を通して保護者啓発ができるように計画し、学びが深まるように仕組んでいく。</li> <li>・教職員は、日々子どもたちの言動に注視し、些細な変容も見落とさないように、職員同士の情報共有を密に行う。</li> <li>・令和6年度は、小中の人権カリキュラムのつき合わせを行い、「くろつちカリキュラム」の人権プランを完成させる。</li> </ul>